

# みらい

No.5

主な内容

平成29年

2月議会 5月議会  
6月議会 要旨報告

討議資料

発行責任者/渡部 英治 ■ 編集責任者/三浦 茂人

向日葵(ヒマワリ:キク科ヘリアンサス属)一年草。日回りとも表され、種実は食用、油糧となる。暑さや寒さに強く丈夫。「ヒマワリ」の属名「ヘリアンサス」は「太陽の花」の意。

## 今こそ、県政課題へ果敢にチャレンジ!

秋田県議会 会派みらい 代表  
議会選出監査委員  
教育公安委員会

### 渡部 英治



平成29年2月議会 代表質問

皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、県議会第2会派「みらい」は、4月よりよしかたせいげん吉方清彦議員を迎え「戦う政策集団・七人の侍」として、新たな体制で県政の最重要課題である人口減少対策とりわけ、「若者の定着」や「女性の活躍できる環境づくり」のため、魅力ある働く場の確保などの重点施策に、今こそ、果敢にチャレンジする覚悟であります。

皆様には、引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

「みらい」の7人は、どの政党にも所属しない無所属の議員で構成されております



吉方 清彦  
(能代市山本郡)

佐藤 正一郎  
(湯沢市雄勝郡)

三浦 英一  
(由利本荘市)

渡部 英治  
(大仙市仙北郡)

土谷 勝悦  
(横手市)

東海林 洋  
(湯沢市雄勝郡)

三浦 茂人  
(秋田市)

# 2月議会

平成29年・第1回定例会  
2月7日～3月9日

平成29年度当初予算は、4月に知事改選期を迎えることから、骨格予算とすることを基本としつつも、あきた未来総合戦略に基づく継続事業や、県民の生活を支える基盤づくりなど、年度当初から執行が必要な事業について計上されました。

## 当初予算の主な内容

平成29年度 一般会計 当初予算

5,635億5,800万円

### ● ウェルカム秋田！移住就業応援事業

…………… 7,439万円

農林水産業等への就業を希望する移住希望者に対する情報提供、体験研修、技術指導等を行う。

### ● 「くらし×しごと」パッケージによる移住促進事業

…………… 3,166万円

本県にある「多様な仕事」と「移住・定住支援策」をパッケージにしたプランの提示及び現地体験プログラムを実施する。

### ● 子育てしやすい職場づくり推進事業

…………… 2,798万円

一般事業主行動計画の策定など少子化克服に資する企業の取組を促すとともに、普及啓発活動による仕事と子育ての両立支援の促進を図る。

### ● 生活バス路線等維持事業 …………… 1億8,380万円

地域内の生活交通を確保するため、市町村が運営または助成している生活バスの運行経費等に対し助成する。

### ● 地域で支える認知症施策推進事業 …………… 4,821万円

認知症の人やその家族が住み慣れた地域で安心して生活を送れるよう、地域で支える体制の構築を図る。

### ● 新 枝豆といえば秋田！ブランド産地確立事業

…………… 1,481万円

えだまめ日本一の産地としての地位を確固たるものとするため、更なる出荷量の増大、長期安定出荷、高品質化を推進するとともに、新たなネーミング等による各種プロモーション、販路開拓等を推進する。

## 2月議会 代表質問

渡部 英治 [大田市仙北郡]

- ◆ 知事の三選出馬と将来ビジョンについて
- ◆ 人口減少対策について
- ◆ 農業政策について
- ◆ 県・市連携文化施設について
- ◆ インバウンド誘客対策について

## 2月議会 一般質問

土谷 勝悦 [横手市]

- ◆ 知事の政治姿勢について
- ◆ 人口減少対策について
- ◆ 農業政策について

## 2月議会 総括審査質問

東海林 洋 [湯沢市雄勝郡]

- ◆ 東北中央自動車道の事業化について
- ◆ 農業生産と収益性について
- ◆ 林業・木材産業における人材育成と県立大学等への専門学科等の創設について
- ◆ スポーツ施設の整備のあり方について

佐藤 正一郎

[湯沢市雄勝郡]

- ◆ あきた未来総合戦略と当初予算について
- ◆ 県・市連携事業について

三浦 茂人 [秋田市]

- ◆ まちづくりの推進について
- ◆ 県・市連携文化施設について

## 県外調査

〈福岡県・大分県／平成29年6月6日～8日〉

- 秋田県福岡事務所 … 九州における県産品の販路拡大と観光誘客について
- 博多港国際ターミナル … グルーズ船用のターミナル施設視察
- 大分県北部振興局 … 地域振興に係る取組について
- 豊後高田市観光まちづくり株式会社 … 「昭和の町」視察、概要説明



● 豊後高田市役所

移住者支援の取組について  
(豊後高田市 佐々木敏夫市長と)



● ウーマンメイク株式会社

女性起業家による水耕栽培の取組と今後の展望について

# 5月11日・12日議会

平成29年・第1回定例会

今回の補正予算は、県政の推進に係る新たな指針の策定に要する経費のほか、秋田の創生に向けた取組、公共事業等のうち、緊急に対応が必要な事業について計上されました。

## 5月補正予算の主な内容

平成29年度 一般会計 補正予算 **5億4,716万円**  
補正後の規模 **5,641億 1,517万円**

### 新「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」策定事業 …… 461万円

「第2期ふるさと秋田元気創造プラン」に続く新たな県政の運営指針を策定する。

- 県・市連携文化施設整備事業 …… 5,017万円  
県・市連携文化施設の整備に向けて、調査等を行う。

# 5月25日議会

平成29年・第1回定例会

5月15日の降ひょうにより被害を受けた農家の経営再建に向け、緊急に対応が必要な事業について補正予算が追加提案されました。

## 5月補正予算の主な内容

平成29年度 一般会計 補正予算 **1億3,392万円**  
補正後の規模 **5,642億 4,909万円**

### 新 果樹産地等緊急総合支援事業 …… 3,328万円

病虫害防除薬剤費・肥料費・種苗費の助成、摘果作業等に要する雇用労賃の助成、販売促進費の助成

# 6月議会

平成29年・第1回定例会  
6月13日～7月6日

今回の補正予算は、人口減少を克服し秋田の創生を加速させるための新規・拡充事業のほか、最終年度を迎えた「第2期ふるさと秋田元気創造プラン」を推進するための事業等について計上されました。

## 6月補正予算の主な内容

平成29年度 一般会計 補正予算 **243億 1,108万円**  
補正後の規模 **5,885億 6,017万円**

### 新 秋田のしいたけ販売三冠王獲得事業 …… 3億4,975万円

東京中央卸売市場におけるしいたけの販売量、販売額及び販売単価の全国一位の達成に向けた販路拡大や生産体制の整備等を支援する。

### 新 オール秋田で働くパパ・ママ応援事業 …… 515万円

企業における仕事と子育ての両立支援の取組を更に促進するとともに、働くパパ・ママの子育てを全県的に応援する機運の醸成を図る。

### 新 スタジアム整備のあり方検討事業 …… 89万円

サッカーを中心としたスタジアム整備にあたっての諸条件や課題等を整理するため、検討委員会を設置する。

### 新 お互いさまスーパー拡大展開事業 …… 351万円

地域コミュニティの維持・活性化を図るため、地域住民が運営する「お互いさまスーパー」の普及や機能強化を図る。

### 新 「秋田ファンづくり」移住推進事業 …… 875万円

将来の秋田移住へとつながる移住潜在層の移住意識を高めるため、秋田の魅力発信等を通じて秋田ファンづくりを推進する。

### ● ツキノワグマ被害防止対策事業 …… 682万円

ツキノワグマの捕獲の担い手を育成・確保するため、新たな狩猟免許等の取得や猟銃等の購入を支援する。

## 6月議会 一般質問

## 6月議会 総括審査質問



### 三浦 英一 [由利本荘市]

- ◆ 知事の三期目の県政運営について
- ◆ クマ被害防止対策について
- ◆ 小学校の英語教育について
- ◆ サッカースタジアムの整備について

### 佐藤 正一郎 [湯沢市雄勝郡]

- ◆ 県立美術館の改装について
- ◆ インバウンド推進旅行会社への出資について



### 三浦 茂人 [秋田市]

- ◆ 中心市街地の交通政策について
- ◆ スタジアム整備構想について

# 渡部 英治の 県議会レポート

討議資料

今回は、2月議会での代表質問より、「**新部設置について**」「**農学部誘致について**」質疑の概要を報告します。

## ●新部設置について

**渡部** 人口減少対策として、新たな部を設置するねらいは、県民と危機感を共有し、県民目線で分かりやすく効果が実感できるような取組を強化するものと認識している。しかし、そこで終わりではなく、確かな成果と実績を上げるよう全庁挙げて「オール秋田」で取り組む覚悟が必要である。知事の所見を伺う。

**知事** 「あきた未来創造部」は、人口減少対策を一元的・一体的に推進する組織であり、これまで以上に事業部局と連携強化を図るとともに、県民、市町村とも危機感を共有しながら、女性や若者等が活躍する秋田の未来の創造に向けて、スピード感を持って取り組んでいく。

## ●農学部の誘致について

**渡部** 人口減少の大きな要因となっているのが、「止まらぬ東京一極集中」です。地方からの人口流出が止まらず、地方創生を目指した企業の本社や省庁の移転も進んでいません。

その中、政府は若者の地方への定着に向け、若者向け雇用機会の創出と大学・学部の地方移転などの方向性を打ち出しました。これこそ、以前から提唱している本県への農学部誘致への絶好のチャンスではないですか。

せっかく新たな部を設置することからも、ぜひ実現に向けた積極的な取組と知事のトップセールスも必要と考える。知事の所見を伺う。

**知事** 全国知事会でも、私が委員長を務める文教環境委員会での議論を基に、地方への大学移転の促進等による若者の東京一極集中の是正を国に



2月議会 代表質問での再質問

『人口減少対策について』

平成29年2月14日 / 秋田魁新報

○：「インパクトに欠ける」。13日の県議会代表質問で渡部英治氏（みらい）が、人口減少対策を強化するため県が4月に新設する組織「あきた未来創造部」の仮称を批判した。

**県議会記者席**

何をやる部か分かりにくいと指摘、「やはり『人口減少対策部』といった誰にとっても分かりやすい名称にすべきだ」と迫った。

佐竹敏久知事は「誰もが活躍して

### 「未来創造」何する部？

もらえる社会づくりを進めることで秋田の未来を創造する、という思いを込めた。県民へのメッセージでもある」と説明した。

質問後、渡部氏は「分かりにくい名称には、成果を上げたかどうか県民からの監視をはぐらかす狙いがあるのではと疑ってしまう。県民と危機感を共有できる直接的な名称が望ましい」と納得がいかない様子。知事の答弁内容もインパクトを欠いていたようだ。

(石塚健悟)

提言している。

大学は、若者人口の維持・増加に加え、地域の活性化や課題解決に向けて重要な役割を担っており、地方では今後、益々その存在意義が高まっていくと認識している。

いずれにしても、一挙に学部全体を誘致することは困難であることから、まずは、今年度からスタートしたユニット研究室を核とした産業活性化推進事業により、大学研究室の一部をランチとして県内に誘致する取組を積極的に進めていく。